

# 健康・医療・介護・福祉ニュース

◆最新の健康・医療・介護・福祉などに関するニュースを集めて紹介します。

## 地域医療の 5

### 架け橋に

奈良医療センター

前回(6月22日付)、パ

キンソン病の治療で用いた「神経回路の働きを正常化するニューロモジュレーション療法」は、ほかの神経難病にも用いられています。

例えば、字を書くときやコップで水を飲むときに、手がふるえてうまくできない人はいませんか。これは「本態性振戦」という病気で、命にかわりませんが、日常生活は非常に不便です。

薬が効かないことも多いのですが、脳の視床と呼ばれるところを刺激すると、ふるえを止めることができます。10年以上ふるえのために、箸で食事をしたり、乾杯ができなかった人が、人前で堂々とできるよじになったりします。

また、筋肉の緊張異常で異常な姿勢や体のこわばりをきたす「ジストニア」と言われ

### 「ニューロモジュレーション療法」で元気を取り戻す

国立病院機構奈良医療センター 平林 秀裕  
特命副院長 (脳神経外科)



平林 秀裕  
特命副院長  
(脳神経外科)

【略歴】奈良県立医科大学卒業  
スウェーデン(ウメオ大学脳神経外科)にて定立・機能神経外科学を学び医学博士号授与。県立医科大学准教授を経て平成22年から現職。第57回日本定立機能神経外科学会会長。

る病気があります。

原因はさまざまですが、勝手に首が捻じれる「斜頸(しやけい)」、字を書くことだげでなくなる「書座(しよざ)」、ギターやピアノが弾けなくなる「音楽家けいれん」などがあります。これらも脳の中の視床(ししょう)や、淡蒼球(たんそうきゅう)を刺激することで劇的によくなります。

## ふるえ、痛みも楽に

弾けなくなる「音楽家けいれん」などがあります。これらも脳の中の視床(ししょう)や、淡蒼球(たんそうきゅう)を刺激することで劇的によくなります。

治療の困難な痛みに対して

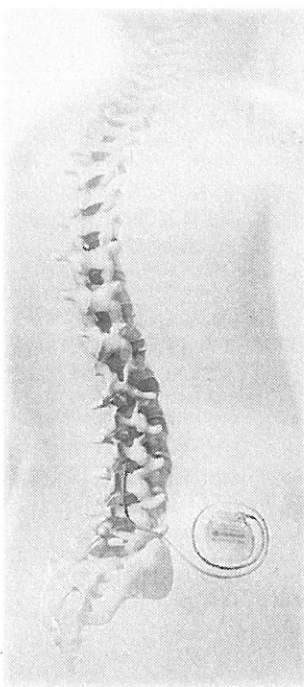
も、ニューロモジュレーション療法は有効です。そもそも電気刺激で病気を治すという発想は、古代エジプトで、電気がウナギで頭痛を治すところから始まりました。

を通じて脳に伝わってはじめて、「痛い」と感じます。痛みのある部分を支配する脊髄に微弱な電気を流し、痛みの信号が伝わりにくくなることで、痛みをやわらげるのが脊髄電気刺激療法です。

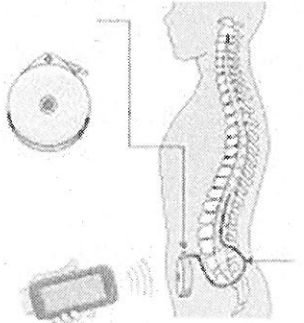
読者の皆さんも、肘(ひじ)をぶつけたときに、肘をさすと痛みが和(やわ)らぐことを経験されると思います。これが、同じようなことです。この治療は、脊椎・脊髄手術後の患者さんに、細いチューブを脳脊髄液腔(くう)に入れて、皮下に埋めたポンプからバクロフェンという薬を流し続け、脊髄の神経回路を調節し、痙攣を治す治療があります【図2】。

の痛みの後遺症や、複合性局所性疼痛(とうつう)症候群などで特に有効ですが、脳卒中後の痛みにも有効なこともあります。

以上簡単にお話ししましたが、当院では、ニューロモジュレーション療法で、患者さんの日常生活がよりよくなるように取り組んでいますので、これらの疾患でお悩みの方は、ぜひ一度、当院の地域連携室まで相談ください。



【図1】



【図2】

は、ぜひ一度、当院の地域連携室まで相談ください。

次回(7月27日)付掲載予定

独立行政法人  
国立病院機構奈良医療センター  
星田 徹院長  
電話0742 (45) 4591